

安曇野ちひろ美術館

美術館だより

No.64

2010.11.17



2010年 安曇野ちひろ美術館の教育普及活動



安曇野ちひろ美術館は、教育普及活動を事業の大きな柱に位置づけ、積極的な取り組みを続けてきました。今年、主な教育普及活動に関わった職員6名が、それぞれの立場から2010年の活動を振り返り、1年を通して考えたことなどを自由に語りました。

各自の発言の一部を紹介します。(屋代亜由)

複製画展/スクールミュージアム

複製画展は、希望する団体等が、いわさきちひろの複製画を展示。飾り付けや会場運営等も、主催者側が主体となって行う。学校で複製画展が開催されるのが、スクールミュージアム。

主催者の熱い思いを感じています

長井 瑤子 (勤務3年目。複製画展や出前授業等を担当。広島出身ながら、学生時代から住む信州もこよなく愛する)

複製画展は、今年、大阪・埼玉・岐阜から依頼を受けています。作品とともに写真やパネル、コメントなども使って、ちひろの人生や平和への願いを伝える展示を行いました。みなさんには、ちひろの作品を通して生命や平和の大切さを広めていきたいという強い思いがありますね。予算が少ないなか、ボランティアで運営をしてくださる方々がいらしたり、展示の後に安曇野へ来館するツアーを組んでたくさんの人を連れて来てくださる方がいらしたりして。主催者の“ちひろについて知りたい、伝えたい”という熱い思いは、本当にいつも感じています。

木曾・福島中学校でのスクールミュージアムは、今年で3年目。美術の授業が減っていくなか、美術館に気軽に足を運ぶことの難しい地域では、子どもたちが美術に出会える機会が減ってしまうのではないかと先生が真剣に考えていらっしやう。数年前からは、やっぱり原画も見せたいと、生徒を連れて来館もしてくださっています。

最近、団体のお客様からも、にじみ体験や読み聞かせの依頼が増えています。たくさんの方が絵や絵本とふれあう機会を、教育普及活動を通して提供できつつあるんじゃないかなと思います。

中学生ボランティア

地元・松川中学校の生徒が、事前研修を受けた後、夏休み中の美術館の、ワークショップ会場で、来館者への実技指導を行っている。ちひろのにじみ体験コーナーがここ数年で定番に。9年目の今年は、過去最多の185名の中学生が参加。体験コーナーの来館者数は、27日間で合計5915人だった。



撮影：中川敦玲

「楽しかったです」「ありがとう」と言ってもらえるのが1番

入口 あゆみ (中学生ボランティア2年目の担当。昨年も、にじみ体験コーナーの運営に関わった。長崎出身)

水彩技法体験のワークショップは今年で4回目。私たち職員もマンネリ化しないようにと、つくったにじみをお客様にどのような形で持って帰ってもらうか、ストラップやカードなど、毎年いろいろと考えています。

中学生の側からこのワークショップを見ると、接遇研修や実技研修を受けて、本番でお客様と接するという過程すべてが、成長のための糧になっている。つくったものという結果だけが大事じゃないんだということは、生徒たちもきっとわかっていると思います。

中学生ボランティアを担当していて、中学生やお客様から「楽しかったです」「ありがとう」と言ってもらえることが1番うれしい。美術館は非日常的な空間だと思われがちですが、私たちスタッフが出ていったり地域の人たちが入ってきたり、人と人が交流することで、どんどん活用できる場所なんだって思っていただけ。そのきっかけが、教育普及活動ではないかと思えます。これからも、交流の輪を広げていくなかの糸口が、当館ならではの普及活動になっていくといいなと思います。

子どもにとって、自然体でいられる場所であれば

屋代 亜由 (中学生ボランティア・松川中図書館委員による絵本の読み聞かせを担当。今年、解説ボランティアを導入。学芸や図書も兼務)

今回初の試みとして、松川中の生徒たちに自分で原稿をつくってもらい、展示室で絵の解説を行いました。まだまだ課題は多いですが、ただ「上手くできた」とか「上手く話せた」というだけではない達成感が、生徒1人1人のなかにはあったのかな。また、生徒たちの絵について人に話したいという気持ちや、美術館とより積極的に関わりたいという思いが見る人に伝わって、そこにもひとつ意味があったんじゃないかと感じました。

文化祭で生徒たちから感謝状をもらったのですが、「来年度も、松川中学校の生徒たちとともにちひろボランティアの伝統

2010年 ちひろ美術館の国際交流活動

2010年の国際交流活動について、アジアの3カ国を中心に、主な活動を紹介します。

■韓国

韓国における、いわさきちひろのピエゾグラフィック展は、2005年以来さまざまな形で続いています。今年は国際交流基金ソウル日本文化センターの協力を得て、同センターとの共催で、各地でちひろの絵の魅力を紹介することができました。

7月には、ソウルの南約25キロにあるアニョン市、8月にはソウルから南約170キロに位置し、韓国5番目の都市の

テジョン市それぞれのロッテ百貨店ギャラリーでちひろのピエゾグラフィック展を開催しました。同ギャラリーは、専属の学芸員によって展示がつけられ、来客を楽しませるために無料で開放されています。韓国の学芸員による展示構成は、作品の並べ方や見せ方等、私たちにはない視点が興味深く、また、展示作業の進め方も参考になりました。

プサンの西約40キロに位置するチャンウォンのアートセンターでは、10月に開催された、総領事館主催のジャパンウィークの一環として、ちひろ展が開催され

ました。さらに、11月からは、テグ市の国立慶北大学美術館でも、ちひろ展と日本の絵本の歴史展と講演を行なう予定です。

■中国

中国は、第二次世界大戦前に、ちひろ自身二度、渡ったことがある国。2004年には、かつてちひろが暮らした大連でピエゾグラフィック展を、今年9月には北京で展示と絵本文化の交流を行いました。

9月24日から、国立中央美術院との共催で開催されたちひろと日本の絵本展は、ピエゾグラフィック約90点によるちひろ展と、日本の絵本の歴史展、また、1945年以降の代表的な日本の絵本100冊と日本絵本賞受賞作品の複製画展による三部構

2010年 安曇野ちひろ美術館の教育普及活動

3月20日(土)
アン・サリー コンサート
「母のまなざし」



伸びやかな声で歌うアン・サリーさん

6月12日(土)
子育て支援講演会
対談「絵本と子育て」
佐々木宏子×竹迫祐子

主催：松川村青少年育成村民会議・安曇野ちひろ美術館
共催：松川村公民館・松川村図書館



絵本について語る佐々木宏子さん(左)

7月31日(土)～8月1日(日)
安曇野まつかわサマースクール
「ギャオン!ぼくらのあずみの
モンスター!!」

主催：2010安曇野まつかわサマースクール実行委員会
共催：松川村、武蔵野美術大学芸術文化学科、安曇野ちひろ美術館、安曇野アートライン推進協議会



武蔵野美術大学の学生と、参加者の子どもたち

3月28日(日)
無料感謝デー



対談で語るちひろの従兄・清澤延嘉さん(左)

6月25日(金)～6月27日(日)
韓国絵本画家 松川村訪問



松川村の小学生(右)との異文化交流

8月29日(日)
対談「いわさきちひろ、平塚らいてう、母の想い」
主催：株式会社一兎社



太田治子さん(右)と飯島ユキさん(左)

5月14日(金)～6月8日(火)
工芸の五月2010
「こどもの椅子」展



9名の作家がつくった「トットちゃんの椅子」

7月22日(木)～8月17日(火)
夏休み体験コーナー
「ちひろの水彩技法体験!」

撮影：中川敦玲



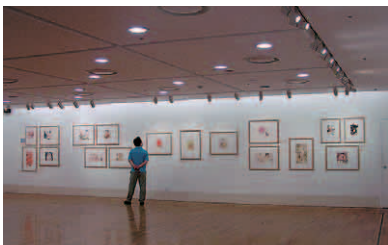
にじみづくりをサポートする松川村の中学生(右)

10月1日(金)～12月19日(日)
「ちひろの昭和」と伊藤まさこさんの
子ども服 協力：雑誌「ミセス」(文化出版局)



ちひろの絵からイメージしてつくられた服

2010年 国際交流活動の様相



①テジョンロッテギャラリーにおけるいわさきちひろ展



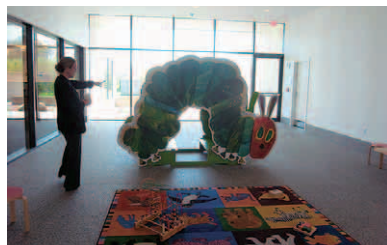
②北京中央美術院の学生らとともに



③1945年以降の代表的な日本の絵本も紹介(北京)



④国立中央図書館台湾分館にてちひろ展のシンポジウム



⑤エリック・カール絵本美術館に新館長を訪問



⑥広島原水爆禁止世界大会にてノルウェー代表と

を輝かせましょう」と書かれていて、9年経って、つながりが出来上がっているんですね。地元の中学校とのきずなを長年育んでいる美術館があって、美術館のことを好きで育っている中学生がいて、中学生の活動を温かく受け入れてくれるお客様がいて。こうした関係があってこそ、アットホームな雰囲気の中で中学生が絵について話すということが成り立つのかなとも思いました。

普段学校でおとなしい子が、美術館では先生が驚くぐらいいきいきと話す場面が見られます。美術館が、子どもにとって、学校とはまた違った自分を出せる場所、自然体でいられる場所であればいいと感じますね。

サマースクール

2002年より、松川村・武蔵野美術大学芸術文化学科・安曇野ひろ美術館の三者が、夏休みの2日間ワークショップを開催。

学生が中心となって企画したアートづくりを通して、村の自然に親しんだり、地元の人たちとのふれあいを楽しんだりしている。全国から参加があり、毎年開催を楽しみにしているリピーターも多い。



僕たちの手を離れたところでも動く可能性がある

駒田 賢一（勤務2年目の男性職員。サマースクールは2年目の担当。大学勤務の経験がある。春から武蔵美に赴き、学生とともにサマースクールのコンセプトづくりに関わった）

たとえば今回の活動テーマだった「世代交流」は、どういうアプローチも可能な言葉です。企画を組み立てていく最初の段階では、学生たちはひとつの解釈やアイデアにとらわれて、検証のないままどんどん勢いで計画を進めていきがちです。美術館側が学生たちをサポートするということは、一歩引いて見て、必要なら彼らが思っていることや視点を少し変えてあげることなのかなと感じました。たくさんのアプローチが存在することをうまく伝えられると、教育普及活動のなかでの人と人との関わりは、もっと面白くなると思うんです。

今、松川村や安曇野のことを好きになったサマースクールOGの人たちから、10周年の特別ワークショップを企画したいという話が持ち上がっています。村の人が好きで、またその人たちと一緒に何かやりたいという思いからです。活動してきたことの意味は、すぐに実感できることもあれば、美術館に直接だったり間接的だったりしながら、時間を経てわかってくることもある。学生たち1人1人にとっても、ひとつの経験として、活動の意味がそれぞれの心のどこかに残る。そうして、いつか僕たち美術館の手を離れたところでも新しいことが動く可能性があるのが、教育普及活動の面白さだと思います。

村とともに、みんなで作る取り組みへ

柳川 あずさ（勤務10年目。サマースクールには初年度から関わる。登山が趣味で、北アルプスの山々に囲まれた安曇野での日々を満喫）

サマースクールは、地域に根付きながら少しずつ浸透してきている活動です。数年前までは、美術館と武蔵野美術大学とが開催している夏のワークショップという感じだったのですが、松川村主体の事業としてみんなで作る取り組みという認識へと、ここ2～3年で変わってきました。

今年は、村の方のお宅やお店や工場を訪問しているとお話を聞いたりもしました。こういう活動を村の事業としてやっていること自体を広めていくためにも、よい機会だったと思います。私たち職員も、以前は子どもたちが危なくないように周りから見ている側でしたが、今回は「世代交流」しようと参加者の一員としてもワークショップに積極的に入り込んでいってすごく楽しかった。

活動を通して、学生も成長していると思います。最初は、「美術館」の響きに惹かれてこのプロジェクトに参加する学生も多いのですが、安曇野の魅力や松川の人たちに触れることで、視野を広げたり、自分自身をみつめるいい経験をしたと感じてくれていたと思います。

サマースクールをはじめとして私が関わっている普及活動は、村の方たちとの交流が多くて。私のなかで教育普及が松川村、役場や公民館や地元の方々とは直結していることを、ここ1年特に感じています。

送り手と受け手が感動を共有できるすばらしさ

阿部 恵（東京館から4月に安曇野館の普及主任に着任。安曇野の豊かな自然と美しい野菜を楽しんでいる。今夏初めて水彩技法ワークショップやサマースクールに参加した）

教育普及は人との関係のなかで成り立つ活動。また、美術館のある安曇野の特性として、豊かな自然に恵まれたフィールドのよさを抜きには語れない。地元の人との関わりと自然環境を、どのように教育普及活動に生かしていけるかが、当館の活動を魅力的にする鍵だと思います。今年のサマースクールでは、協力してくれた村のお宅が軒先でもぎたて胡瓜を出してくださり、学生も子どもも私たちも一緒にかじりながら昔話を聞かせていただいて楽しかった。ワークショップの最後の作品発表時には、たくさんの方々が駆けつけてくださって……。本当に感激しました。韓国の絵本画家のグループが来たときは、村の有志が民泊という形で迎えてくださる。東京ではなかなか実現しにくい文化施設としての豊かな活動が、安曇野では、松川村との関わりのおかげで確実にできてきていると思いました。

地元の方々が「自分たちにもできることがあるなら加わりたい」とおっしゃり、温かく見守ってくださる。また、先生や親御さんが「中学生ボランティアの存在はとてもありがたい。松川の子どもたちは幸せだ」と言ってくださる。こうした声に支えられて、私たちには次の普及活動のエネルギーがわいてくるのだと思います。また、そういう土壌が10年を経て育ってきて、美術館だけでは成せない活動へと広がってきていることはとてもうれしいこと。今後も、地域に深く根ざし、文化の発信地としてよりいきいきとした活動をするために、個人々が好奇心を磨いて勉強することや、同じような活動をする団体や美術館と交流したり、情報の収集をすることも大事なことだと感じています。

成です。同学院デザイン科の楊忠先生を中心に、今夏、ちひろ美術館・東京にも来館した同科の学生たちによるサポートで展示が実現。「日本の絵本発展の歩みとその背景」という講義も持ち、ちひろを含め、日本の絵本の魅力を紹介しました。展示初日には、当館のコレクション画家である武建華さんや于大武さんが駆けつけてくださり、開幕。折り悪しく、尖閣諸島の外交問題と時期が重なる中、会期は短縮されたものの、学院の熱意と努力に支えられ、無事終了しました。会期中、来館された婦女子童博物館や南京芸術大学などからも、展覧会開催の希望が寄せられています。民間レベルの人と

人との地道なつながりこそが、異文化理解の鍵だと実感する好機でした。

■台湾

1914年に日本の総督府によって設立された国立中央図書館台湾分館は、今は近代化され、年間200万人以上の利用者があります。ここを会場に、国立台東大学児童文学研究所の游珮芸先生と同大学院の学生さんが準備をして台湾で初めての大規模なちひろ展が開催されました。

展示初日にはちひろについてのシンポジウムも開かれました。会期中には1万人以上の来館者を迎え、30名を超えるボランティアの方々がギャラリートourを行い、来場者からの作品に寄せるメッセ

ージ2000通以上が寄せられるなど、数々の試みが展示を盛り上げました。その後、9月18日からは、国立台東大学のある台東生活美術館へ展示が巡回、会期中には小学生を対象に水彩画のワークショップも開かれました。

台湾では、引き続き11月から台中市において、大型書店の誠品書店、台東大学との共催でちひろ展が開催されます。

いわさきちひろの作品と人生、そしてちひろ美術館の活動理念を伝えていく意義を、異なる文化・国の人たちとの協同活動で今まで以上に実感した1年でした。（松方路子）

ちひろを 訪ねる旅③

穂高・碌山美術館

1968年11月、いわさきちひろは所属していたグループ「車」の旅で、東本つねらとともに、大先輩の童画家・川上四郎を新潟の湯沢に訪ねます。川上四郎（1889-1983）といえば、まさにちひろが子ども時代に武井武雄、初山滋らとともに活躍していた画家。1946年に武井、初山らと日本童画会を設立しました。当時はすでに郷里の長岡に程近い湯沢に移り、子どものための絵を描いていました。

その帰路、ちひろは東本とともに上越線から直江津で信越線に乗り継いで黒姫に回り、黒姫の山荘に待つちひろの母、岩崎文江と合流。三人は揃って、穂高（現・安曇野市）の碌山美術館を訪れます。



碌山美術館 1965年頃

碌山美術館は、日本の近代彫刻を代表する荻原守衛（碌山）の業績を紹介するために、1958年、碌山の生地穂高に造られました。建設は、地元の人々や中学生たちが瓦や石を運ぶなど献身的な協力と全国へ呼びかけられた募金活動によって実現し、寄付を寄せた人々は30万人近くに及びました。

設計は、早稲田大学工学部建築科主任教授であった今井兼次。外壁に焼レンガを積み上げ、西欧の教会をイメージしたという建物には、高い尖塔が立ち、その先端には不死鳥が飾られています。ちひろも木立の向こうに美しいたずまいの碌山美術館を捉えています。その姿が多くの人々に記憶された

のは、1970年代。「ディスカバー・ジャパン」のポスターで紹介されたのがきっかけ。当時は雑誌「an・an」や「non-no」の読者、いわゆるアンノン族と呼ばれた若い女性たちも多く訪れ、安曇野のシンボリックな存在となりました。

ちひろたちが訪れた前年、1967年には、地域の教員、高校生、中学生の手でグズベリーハウスが造られ、サモワールでお茶を沸かして来館者を迎えたといひます。ちひろ一行も、そこで、晩秋のひとときを過ごしたことでしょう。今も、同館の敷地は、隣接する穂高東中学校の生徒たちが毎日きれいに掃除をし、人々を温かく迎えています。（竹迫祐子）

ひとこと ふたこと みこと

8月7日（土）

『スーホの白い馬』の原画が見られて幸せです。子どもたちが幼い頃、読み聞かせをして、その後子どもたちは眠って、母の私はもう一度ゆっくりと味わいつつ1人で絵本にひたりました。その本の原画に会えると知って、横浜から夫を伴ってやってきました。大切に保管してくださっているちひろ美術館の皆様に感謝！ また訪れたいと思います。（60代女性）

8月21日（土）

ちひろさんへ ちひろさんの絵はいつも不思議です。たとえば、普通は緑で描くところを赤で描いたり、子どもが時々自分の妹に見えたり……。私もちひろさんみたいに絵がうまくなりたいです。天国でも絵はまだ描いていますか？

描いていますよね！ 私もそんなちひろさんを見習って生きたいです。天国でも頑張って絵を描き続けてください。（小6 藤井茜）

8月31日（火）

松本から来ました。2年ぶりぐらいに来ましたが、来るたびに、新しい発見があります。自分が大人になるにつれて、ちひろさんのように純粋で温かな視点を持ちつづけることの難しさを感じるようになりました。今は上京して大学に通っていますが、この北アルプスを見るたびに私の故郷は信州なんだと思います。

9月18日（土）

昨日は私の誕生日で友人が企画した一泊旅行で来ました。ここにある絵本は私が子どもの頃読みあさったものばかりで、あの頃の真っ

直ぐな自分を思い出しました。子どもを持つ身になり、ここにあるすべての子どもの絵が我が子と重なります。私を見る目、眼差しの純粋さを思い出し、目頭が熱くなります。絵本は、自分の年齢や経験により感じるものがその時々で違います。いつかここに来てまた読み返したい、そして自分の子どもにも与えてあげたい、子育てに迷ったらここに来たいです。（幸枝）

10月6日（水）

昭和の子どもたちに、懐かしさを感じました。私たち田舎の子どもには、同じ「あそび」でもこの絵のようなメルヘンチックな想い出はありませんが、子ども心は一緒だと感じました。ちひろさんは子どものような純粋な心を持ち続けた稀有な人だと思っています。（横山）



美術館 日記

8月16日（月）☀

「赤羽末吉展Ⅱ」の会場で、子どもたちの人気を集めたのが、DVDで上映した舞台「かちかちやま」。赤羽さんが舞台美術・衣装を手がけた名古屋踊りの映像に、多くの子どもが見入ったり、踊りを真似したり。この日も、釘付けの子どもたちを発見。

8月29日（日）☀

『らいてうの姿 ちひろの想い』の出版を記念して、当財団の評議員でもある作家・太田治子さんと、生前のらいてうを知る俳人・飯島ユキさんの対談を行った。ちひろ、らいてうが願った平和への想いや、二人の母性、強さについてのお話に、「太田さん、飯島さんのお人柄がすてき」「86歳の老体にむち打って、何かしたくなった。気持ちが若返った」といった感想が寄せられた。

9月25日（土）☀

正面玄関横にあるヤマボウシの実が色づきはじめ、足を止めるお客様が増えてきた。「実がならない種類もあるけれど、ここは立派な実がなっているね」「ジャムにすると美味しいよ」とお客様との会話も弾む。

9月26日（日）☀

旅行会社の企画で「ちひろの愛した安曇野ウォーク」が開催され、71名の方が参加。当館の見学後、田園風景や有明山を見ながら、ちひろのスケッチポイントを歩いて巡った。ガイドを務めた「有明山語りの会」の方から、安曇節や遺跡の説明を聞いたり、「赤とんぼ」などの歌を合唱したりと盛りだくさんの2時間に、参加者はみな満足そうだった。

10月1日（金）☀

信州デスティネーションキャンペ

ーン特別企画「銅造菩薩半跏像展」では、通常松川村の観松院に祀られている、県下最古の金銅仏を公開。開催前から問い合わせもあり、関心の高かった同展、初日から松川村内を中心に多くの方が来館。「菩薩様を観に来た。すばらしかった」との感想もきかれた。

10月7日（木）☀

近隣の観光・宿泊施設の関係者を対象に、内見会を初めて実施。松本から白馬までの17施設から30名が集まり、ギャラリートークや、当館カフェメニューを味わう茶話会に参加した。初めて来館された方や、「解説を聞いて、今まで知らなかったことを知ることができた」という方も。「松本から白馬までの地図を作っでは？」との意見も出され、活発な交流の場となった。



●2011年春 展示予定 3月1日(火)～5月10日(火)

〈展示室1〉ちひろの少女

幼い頃のちひろ自身を投影した少女、見る人の思い出と重なる少女……。ちひろが描いた少女たちはみな、大人が忘れてしまいがちな繊細な心を持って表現されています。本展では、代表的な少女像とともに、絵本『ひさの星』『たけくらべ』など、ちひろがヒロインの心の動きや変化を深く読み解き、描き出した作品を展示し、ちひろの少女像の魅力を紹介します。



『あかちゃんのくるひ』(至光社)より 1969年



海を見つめる少女 1973年



黄色い背景のなかにすわる少女 1969年

〈展示室2〉初期素描・スケッチ

〈展示室3〉世界の絵本画家展

〈展示室4〉〈企画展〉

ドゥシャン・カーライ×出久根 育展

※展示タイトル、内容は変更になる場合があります。

スロヴァキアを代表する絵本画家の一人であり、国際アンデルセン賞画家受賞画家でもあるドゥシャン・カーライと、そのカーライに学び、2003年ブラティスラヴァ世界絵本原画展でグランプリを受賞した出久根育。カーライの繊細で緻密な描写、さまざまな色が複雑に重なり合うことで生まれる色彩は、独特の世界をつくり出します。また、現在チェコに住む出久根は、東欧の歴史や伝統、空気感までも巧みにその作品に描き出しています。本展では、二人の画家の作品を合わせて展示し、それぞれの個性と魅力を紹介します。



ドゥシャン・カーライ『魔法のなべと魔法のたま』より 1989年



出久根 育『マーシャと白い鳥』(偕成社)より 2005年

〈展示室5〉絵本の歴史

●2011年 年間展示予定

※展示タイトル、内容は変更になる場合があります。

- 5月13日(金)～7月12日(火)
ちひろの旅物語／〈企画展〉茂田井武の珍旅行
- 7月15日(金)～9月13日(火)
〈出版記念展〉ちひろ・夏の画集／世界の絵本画家展
- 9月16日(金)～11月30日(日)
香月泰男生誕100年記念ちひろと香月・母のまなざし父のまなざし／〈企画展〉三国志 千大武展

●2011年 館外展の予定

※展示タイトル、内容は変更になる場合があります。

- ちひろ美術館コレクション展
 - ・ 4月16日(土)～5月15日(日) 島根県立石見美術館(島根・益田)
世界のコレクション画家の作品を中心とした展覧会。
- いわさきちひろ展
 - ・ 4月27日(水)～5月17日(火) 松坂屋美術館(愛知・名古屋)
松坂屋美術館開館20周年記念で開催されるいわさきちひろ展。
 - ・ 7月23日(土)～8月28日(日) 新潟県立近代美術館(新潟・長岡)
ちひろの絵によせたメッセージを募集・発表する参加型の展覧会。

●新商品紹介

ちひろの一筆箋

開催中の「ちひろの昭和～なつかしの日々」展にちなみ、レトロでかわいらしい一筆箋を販売します。数量限定・期間限定の販売です。

○販売価格：各450円(税込)



●新商品紹介

2011年イヤーズプレート

毎年人気の、鳴海製陶のイヤーズプレート。今年の絵柄は、「アヒルとクマとあかちゃん」です。

○販売価格：5,250円(税込)



●冬期休館のお知らせ

2010年12月20日(月)から2011年2月末日まで、館内整備のため、安曇野ちひろ美術館は冬期休館させていただきます。2011年の開館は、3月1日(火)からです。



CONTENTS

- 〈活動報告〉2010年 安曇野ちひろ美術館の教育普及活動
2010年 ちひろ美術館の国際交流活動……②③④
ちひろを訪ねる旅⑨／ひとことふたことみこと／美術館日記…⑤

美術館だより No.64 発行2010年11月17日

● 安曇野ちひろ美術館